



<https://www.kinki-sha.org/>

# 近畿学校保健学会通信

## No.169

2024年10月17日発行  
近畿学校保健学会事務局  
〒572-8508 大阪府寝屋川市池田中町17-8  
摂南大学現代社会学部  
TEL :072-800-5413 FAX :072-800-8187  
Mail : kinkigakkohokengakkai@gmail.com  
振込口座 00940-5-181826

### 目次

第71回近畿学校保健学会（2024年度年次学会）報告	..... 2
1. 第71回近畿学校保健学会を終えて	..... 2
2. 一般講演座長報告	..... 3
3. 教育講演報告	..... 6
4. シンポジウム報告	..... 7
5. 2024年度近畿学校保健学会奨励賞	..... 9
6. 学会印象記	..... 10
2024年度近畿学校保健学会奨励賞抄録	..... 11
2024年度近畿学校保健学会評議員会・総会報告	..... 13
2024年度第1回近畿学校保健学会幹事会議事録	..... 15
編集後記	..... 16

### 会費納入のお願い

2024年度は役員改選の年にあたり、来年の2月に役員選挙が行われます。選挙権の有資格者は2024年度の会費を納入された会員で、被選挙権の有資格者は2022～2024年度の会費を納入された会員となっております。今年度の会費が未納の会員におかれましては、必ず12月末までに会費を納入していただきますようお願いいたします。

また、所属地区等の会員情報の変更やメールアドレスの登録につきましては、QRコードや学会ホームページから可能です。よろしく願いいたします。



## 第71回近畿学校保健学会（2024年度年次学会）報告

### 1. 第71回近畿学校保健学会を終えて

学会長 大川 尚子  
(京都女子大学心理共生学部)

第71回近畿学校保健学会は、令和6年6月22日に京都女子大学において対面で開催いたしました。京都の歴史を見守ってきた東山エリアにあるキャンパスの新校舎での学会でした。梅雨入り直後でしたが、夜までどうにかもちこたえ、会員の皆様をはじめ、実行委員の皆様、京都女子大学心理共生学部の皆様の多大なご協力により、無事に終えることができました。心より感謝申し上げます。

今学会は、「学校保健活動におけるICT活用」をテーマに、教育講演は宇治徳洲会病院 高度救命救急センター長 畑 倫明先生に、「その時、学校はパニックに?! 救急・災害医療のプロフェッショナルが語るいざという時の対処方法」と題しご講演をいただきました。今年の1月の能登半島地震でも、多くの学校が避難場所となり、学校教職員は現在もその支援にあたっておられます。その時学校は、教職員はどうすればよいのかを、参加者の皆様と一緒に考える機会になりました。参加者からは、「すぐに役にたつ内容でしたね。とても勉強になりました。お話も上手で引き込まれました」というご感想がよせられました。

続くシンポジウムでは、学校長、養護教諭、医師会、歯科医師会、薬剤師会の5名のシンポジストにそれぞれの立場から、「学校保健活動におけるICT活用」についてご発表いただき、フロアも交えて皆で考える機会となりました。5名のシンポジストの先生方にご発表いただいたため、お一人あたりの時間が短く、まだまだお聞きしたい内容ばかりでしたが、新しい視点やこれから必要となる知識についてご教示いただきました。今回、三師会の先生方がそろってご登壇していただけたことを大変うれしく思っています。

一般演題では、2会場に分かれて「養護教諭・性教育」「養護・連携」「保健管理」「大学生」に関する16題の研究発表があり、座長の先生方の細やかな運営により活発な質疑応答が行われました。「一般演題はかけ足での発表だったため、もっと詳しい内容を知りたいと思いました」というご感想をいただきました。

また、今年度も2名の方に「近畿学校保健学会奨励賞」を授与いたしました。受賞された方の今後のご活躍を祈念いたしております。今後も、学会員の皆様が本学会で研究の成果を多数ご発表いただけることを願っております。

今回の学会では、ノボノルディスクファーマ株式会社様にご協賛いただき、こうどう小児科 幸道 和樹先生に「成長曲線からみる子どもの発達～そこからわかる成長障害～」と題しご講演をいただきました。「幸道先生の成長曲線についての講演がわかりやすく大変良かった。食事をしながら聴くのが勿体無いようでした」とのご感想をいただきました。

昨年度に引き続き対面による学会開催となり、「オンラインであれば遠方に足を運ばなくても参加できるメリットはありますが、近場（近畿圏内）であれば今後も対面で積極的に参加しようと思えました」という感想もいただきました。また、5年ぶりに懇親会（情報交換会）も復活させました。大学カフェテリアで、学会開催を機に新たな繋がりもできましたし、久しぶりの懇親会ということもあり、夜遅くまで研究やお仕事の情報交換をされ盛り上がっていました。

終わりに、本学会開催にあたりご後援くださいました京都府医師会、京都府歯科医師会、京都府薬剤師会、京都府教育委員会、京都市育委員会、ご協賛いただいた企業様、関係各位に厚く御礼申し上げます。

## 2. 一般演題座長報告

### 第A会場

#### <養護教諭・性教育>

座長 古川恵美（兵庫県立大学）

#### A-1 小学校養護教諭の保健授業への参画状況と授業の困難さに関するアンケート調査—兵庫県内10地域の比較検討より—（岡本 希 他）

兵庫県内の小学校養護教諭対象にアンケート調査を実施し、保健授業への参画と授業の困難さを尋ね、10地域で比較したものである。保健授業で「困っている」内容は、4年生の単元では発育と発達、二次性徴、5年生の単元では心の発達、心と体のつながり、不安やなやみへの対処であった。6年生の単元では飲酒、喫煙、薬物乱用、がん教育、パソコンやタブレット・スマホと健康であり、高学年ではLGBT教育とヤングケアラーであった。また、学校外の専門家や機関を活用した授業づくりにも困難があるとの報告がなされた。引き続き、この地域での取り組みについての知見が集積されていくことに期待したい。

#### A-2 小学校4年生における未来を肯定的に捉えた体の発育・発達の学習の評価—養護教諭が関わったWYSH教育の取り組みより—（山田麻美 他）

小学校4年生を対象に、保健学習「二次性徴」と特別活動「キャリア教育の要素を含む学習」に、木原（2007）が意識変容や行動変容を促すために開発したWYSH教育の授業モデルを取り入れ、担任と養護教諭がT・T指導で実施し、介入効果を検証したものである。科学的に二次性徴を学習し、児童同士の意見交流を重ねたキャリア教育への横断的学習を行ったことで、〈体に関する否定的な感情〉についての介入効果が認められ、〈将来設計〉は女子において介入効果が認められたことが報告された。本プログラムに養護教諭が関わることで、身体に対する個別的な相談や悩みにも対応できると考えられ、今後も継続して取り組んでいかれることを期待したい。

#### A-3 中学校の性に関する指導の実態及び関連

#### 意識—教員と外部講師（助産師）に対する質問紙調査結果の比較—（森本雅子 他）

中学校での性に関する指導について、教員と助産師に質問紙調査を実施し、学校と外部講師の指導の実態及び意識を統計分析したものである。性に関する指導で多く実施されている内容は順に、教員が「思春期の心理」、「異性への関わり」で、助産師は「妊娠・出産」、「生命の尊重」であった。助産師が教員より有意に難しいと考えている内容は、「生命の尊重」「性感染症」「デートDV」「性の多様性」等であった。助産師の方が有意に肯定的に捉えていた内容は「自分の身体や人の体を労わることができる」、「性を学ぶことで生き方を考えることができる」であることが報告された。専門職としての役割の違いを認識して実施する必要があることが示唆される貴重な報告であった。

#### A-4 軽度知的障害・発達障害のある特別支援学校高等部生徒における性の個別学習の体験—学習者の語りを通して（鶴岡尚子）

特別支援学校に在籍する軽度知的障害や発達障害のある高等部生徒5名を対象として、性に関するオリジナル教材での個別学習後、インタビュー調査で質的記述的分析を行ったものである。学習による言葉や知識の拡充が、学習に肯定的な意味を与えることで、学習を通して将来への備えに対する認識が広がっていた。学習により新たな知識を得ると同時に、倫理的・法的な複雑性を抱える事象に驚きや当惑を感じる様子も見られた。性に関する学習の形態については、個別学習という形態が十代の生徒たちの心理的特徴と障害特性に適合し、生徒たちにとって心理的に安心できる形態であったことが示唆されたこと等が報告された。性への関心の程度にかかわらず、オリジナル教材「パスポート」を用いた学習の効果についての貴重な発表であった。

#### <養護・連携>

座長 長谷川法子（京都府総合教育センター）

#### A-5 雑誌『養護』における養護概念に関する検討（高橋裕子）

本研究は、専門雑誌『養護』の刊行10年間の養護概念とその変化を詳細に分析した大変意義深いものであった。明治期の教育学の「養護」はどのような系譜を経て現在の学校衛生での「養護」・養護教諭の「養護」に至ったのか、明治期の教育学説とは異なる国家意識に基づく目標・内容の養護論が展開されていた。明治期の教育学・養護が学校衛生・養護に「結合」し、現在の養護の起源とする歴史認識には検討の余地があり、現在との認識の違いを念頭に、時代の変化と共に変遷する「養護」について、教育学説史に基づく緻密な考察等、今後の研究に期待したい。

#### A-6 学校における養護教諭の校務の情報化に関する実践的研究（酒井隆子 他）

本研究は、養護教諭の校務ではICTが求められるが、実際は養護教諭個人の裁量に委ねられていること等からICTスキル向上を目的とした研修会を実施し、その効果を検証された大変興味深いものであった。養護教諭の日常業務である入室記録（保健日誌）や健康観察を独自にシステム化したExcelデータを作成し、活用事例を紹介・共有した後、事後アンケートで自由記述式の回答を求める方法であった。システム化したデータへの肯定的な意見や今後の活用への意欲的な回答が多く、研修後の実践で一層の効果があると考えられ、今後の研究に期待したい。

#### A-7 学校の自殺対策におけるSCやSSWとの協働ネットワークの機能化（細川愛美 他）

本研究は、子供の自殺対策のゲートキーパー（以下、GK）として必要な研修体制を構築し、GKに求められる姿勢や自殺予防を進める困惑感の構造を明らかにする大変貴重な報告であった。SCやSSWへの面接で、両者の業務内容の明確な差異や学校での認知度を含む存在感が語られた。SCでは教職員の姿勢や自殺対策の困難感等の、SSWでは学校の協働的な支援体制等の具体的な内容が示された。教職員のGKの機能化は教職員個々の資質能力に対する研修に加え、協働する組織風土や心のケアに焦点化した危機管理体制の構築の重要性が明らかになり、今後

の研究に期待したい。

#### A-8 特別養子の保護者に対するペアレント・トレーニングの実践～学校生活に関連する保護者の語り～（古川恵美 他）

本研究は、特別養子及びその家庭への教職員の支援方法検討のため、特別養子縁組家庭の保護者へのペアレント・トレーニングにおいて、子どもの行動の分析中に語られた、学校生活との関連内容を明らかにすることを目的に実施され、大変示唆に富んだものであった。

紹介された2例では、いわゆる「生い立ちの授業」では乳児院での撮影がわからない写真の持参、不登校傾向の現状では「真実告知」が難しいとの懸念、子どもとの血液型の話題で困惑等の実体験が語られた。多様な背景を持つ子どもや保護者への理解と支援のため、今後の研究に期待したい。

### 第B会場

#### <保健管理>

座長 八木利津子（桃山学院教育大学）

#### B-1 小学校高学年児童における食生活リテラシーの機能と要因（浅沼 徹 他）

小学校高学年児童における食習慣の良好さと食生活リテラシーの高さとの関連について有意な正の相関を示した興味深い報告であった。また、食生活リテラシーの関連要因について分析した結果、先生からのソーシャルサポートを多く得ていることや、家庭での食事への関わりで、お使いや保護者と買い物に行く頻度が高いこと、学年が上がることで食生活リテラシーの高さと有意な関連を認めたことから、食生活リテラシーの育成要因について明言された。今後も、健康を促進する上で必要な食生活リテラシーの向上に繋がる教材開発に向けた検討に期待したい。

#### B-2 市販の体組成計で測定した小・中学生の体組成結果の有用性について（中村晴信 他）

体組成の適切な形成が生涯の健康に重要で、体組成情報は生涯の健康保持に有用という知見から、小学高学年と中学1・2年生を対象に、市

販の体組成計による測定結果を二重エネルギー X 線吸収測定法 (DXA) による測定結果と比較し有用性が検証された。その結果, 2 つの測定システム間で強い関係性が認められ, 個別モニタリングで縦断的に使用するのに十分な測定性能を有すると示された。体組成計の情報を簡易に得ることができ, 個人の有用な情報となり健康管理に役立つツールとなり得ることから, 健康教育の実践的活用に向けて検討いただきたい。

### B-3 起立性調節障害のある児童生徒の学校生活に関する文献検討 (木原彩子 他)

起立性調節障害に対して学校現場で早急な対応が求められることに着目し, 国内の論文を中心に調査した報告である。検索 122 件中, スクリーニングされた 7 文献を対象に, 身体症状, 心理・社会的要因, 不登校傾向の対応, 支援体制の 4 観点から支援内容が検討された。その結果, 体調不良時の配慮として登校時間や居場所を共に探す柔軟さや症状に応じた社会生活への適応力向上, 連絡方法と頻度等を相談して決めること, 学校関係者の正しい知識と理解が重要であることが把握でき, 学校保健関係者の役割が大きいと示されたことから, 今後は個々の事例検討に期待したい。

### B-4 コロナ時代における思春期のメンタルヘルスに関する国内の研究動向 (川勝佐希)

コロナ発生から今日における思春期の子どものメンタルヘルスに関する実態を捉えるために, 文献検討によって国内の研究動向を概観した。その結果, 分析対象の 6 件ともコロナ禍を調査期間としており, メンタルヘルスは抑うつ・不安・自殺関連の報告が 5 件, 自尊感情に関する報告が 1 件であったが, well-being やストレス対処に関する報告は 0 件であった。メンタルヘルスに関する報告は抑うつなどに留まっているという考察から, 今後は, 国外の文献検討も視野に入れながら思春期の心の問題解決に向けて, 抑うつ傾向の若年化への対応を追究することが必要と考える。

## <大学生>

座長 藤原 寛

### B-5 女子大生の援助希求能力と阻害要因 (市ノ瀬奈々 他)

女子大学生が困ったときに援助を求めない者や求めることができない者へのアプローチ方法や援助希求能力を育成するための方策について報告された。普段, 相談することが少ない学生は, 相談相手に負担をかけたくない, 相談することに抵抗感があり, 人に弱みを見せたくない, 相談相手を見つける負担が大きいなど, 自分自身で悩みを抱える傾向にあり, 相談できるような雰囲気や日常的な気づきが大切であると考えられ, 今後, より深刻な問題に進行しないよう, 自己肯定感が確立できるよう周りがどのように関わることが課題であると思われた。

### B-6 大学生における合理的配慮提供による効果の検討 (嶺 哲也 他)

障害を有する学生を対象に修学上の困難さとともに合理的配慮を受けたと感じる程度や授業の満足度を客観的に検証した報告であった。対象者の多くが学修時に合理的配慮により授業への満足感を感じていると思われたが, 履修科目によっては苦慮しており, 合理的配慮の内容や関わり方により満足度が上がることが確認された。本研究は, 合理的配慮により, 障害を有する学生に質の高い学修を提供することができる有用な報告であったが, 個々人の障害の種類や程度によりどのような合理的配慮が有用であるか, 今後の研究成果を期待している。

### B-7 大学生の対人場面における主観的な身体感覚反応と抑うつについて (竹端佑介 他)

健常な大学生を対象に, 対人場面での情動を伴う「対人恐怖的心性」や「ふれあい恐怖心性」と, 対人状況における問題行動や他者との関係における自己意識, 自律神経や表情の変化などとの関連を質問紙法により検証した報告であった。対人恐怖心性の高い者は, 対人場面で自律神経や表情の変化を敏感に反応し, 抑うつ感を抱く傾向にあった。近年は, 他者との関わりを持た

ない学生も多く、その中で、他者とのふれあいに不安を感じる学生には適切な対応が必要であり、彼らの学生生活での学修への意欲や成果によりどのような差異が見られるか興味深い。

### 3. 教育講演報告

「その時、学校はパニックに?! 救急・災害医療のプロフェッショナルが語るいざという時の対処方法」

講師：畑 倫明（宇治徳洲会病院  
高度救命救急センター長）

報告者：西岡伸紀（京都女子大学心理共生学部）

今年に限っても、1月の能登半島地震、8月の日向灘地震が報じられ、その直後「南海トラフ地震臨時情報（巨大地震注意）」が発表されました。日本が自然災害の国であることを痛感します。

そのような最中に、畑先生から、自然災害発生時の対処の要点についてご講演いただきました。先生は、日本 DMAT、国際緊急援助隊等の隊員として国内外の災害発生の最前線で活動を重ねられる一方、専門職、非専門職、学生等の対処能力の養成のため、様々な機関、機会にご指導をされています。

災害発生時には、学校や養護教諭を含めて、私たちには様々なことが求められます。お話では、東日本大震災の際、学校や保健室には、地域の住民、職場の労働者、近隣の入院患者、開業医等が幾度も来所し、救助ヘリへの乗車の優先順位の決定、避難住民の健康管理なども求められたそうです。

被災しパニックになりがちな状況下、先生は、対応のポイントとして、CSCATTT と PFA を挙げられました。学校に関わる緊急時の対処法については、文科省は、例えば「学校防災マニュアル（地震・津波災害）作成の手引き」など作成し、緊急事態の発生時の各職種や立場の役割に注目した対応がフローチャート等で示されています。ただ、問題として、災害には一つとして同じものはなく、本当の発災直後にはそれに対応したマニュアルはないことを指摘されました。そのうえで、全ての災害に共通する対処方法として、CSCATTT を紹介されました。その内容

は、

C: Command & Control 指揮・統制

S: Safety & Security 安全

C: Communication コミュニケーション

A: Assessment 評価

T: Triage トリアージ（選別）

T: Treatment 治療

T: Transport 搬送

です。

学校での対処では、前半の CSCA が特に重要と考えられます。指揮や統制、安全確保、情報の収集・共有等を含むコミュニケーション、災害や対応等に関する評価など、組織的対応には不可欠であるためです。また CSCATTT は、自然災害に限らず、大阪教育大学附属池田小学校の不審者侵入殺傷事件、多数の熱中症患者の同時発生など様々な大規模災害にも、さらには小規模の災害にまで適用できるとのことです。混乱する状況下、個人や組織にとって簡潔明瞭なポイントは不可欠と思います。TTT についても、より効果的な医療に迅速につなぐためには理解が必要と考えます。

心のケアについても、対応の基本は Psychological Fast Aid (PFA) であるとされました。文部科学省は「学校における子供の心のケアサインを見逃さないためにー」を作成し学校関係者の幅広い活用を進めていますが、個人的には「心のケアは専門の臨床心理士にお願いしたい」という思いが拭えません。しかしながら、先生は、カウンセラー等の専門職以外の人にできることがあるとされました。また PFA の特性について、フィールドガイドから解説され、

- ・実際に役立つケアや支援を提供する。ただし、押し付けない。

- ・生きていく上での基本的ニーズ（食料、水、情報など）を満たす手助けをする。

- ・話を聞く。ただし、話すことを無理強いしない。

- ・安心させ、心を落ち着けるよう手助けする。などを挙げられました。

さらに先生は、

- ・衣食住から始まり、安心・安全を提供することを優先する。

・大切なのは関係作りである。  
ことを強調されました。専門職による支援は不可欠ですが、非専門職や一般市民にもできることがあることに気づかされた次第です。

ご講演では、国内外の災害現場での活動の写真を拝見し、先生や先生方のチームの初動の早さに目を奪われましたが、それに加えて、以降のCSCATTTやPFAが重要であることがよく理解できました。災害発生時の対処に様々な視点をいただき、自分たちができることやその責任を実感させていただきましたことに、深く感謝申し上げます。

#### 4. シンポジウム報告

##### 「学校保健活動における ICT 活用」

報告者：大川尚子（京都女子大学心理共生学部）

新型コロナウイルス感染症拡大による新しい生活様式や、新しい学校環境における教育が進められるなか、文部科学省のGIGAスクール構想（1人1台のタブレット端末と高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備することで、特別な支援を必要とする子どもを含め、多様な子どもたちを誰一人取り残すことなく、公正に個別最適化され、資質・能力が一層確実に育成できる教育ICT環境を実現する）が2020年度に前倒して完全実施が行われました。

学校では教育のICT化が進められており、第3期教育振興基本計画でも、ICT利活用のための基盤整備として、学校のICT環境整備を促進することが目標として位置づけられています。

令和3年8月には、文部科学省より「やむを得ず学校に登校できない児童生徒等へのICTを活用した学習指導等について」が通知されました。今後も感染症の感染拡大による臨時休業や出席停止等により、やむを得ず学校に登校できない児童生徒が増加することが想定された中での通知であり、感染症の流行下においてもICTを活用した指導を実施しながら教育活動を進めることが求められています。

その中で、学校保健活動でも様々なICTを活用した取組みが進められています。不登校や発達課題のある児童生徒等への支援、院内学級・自

宅療養の児童生徒の支援、保健教育でのプレゼンテーションや健康診断での事前指導、オンライン学校保健委員会や校務支援システムの活用、健康診断・健康観察等の情報の利活用等が考えられ、「令和の日本型学校教育」の構築を目指して、今後さらに活用を進めていく必要があります。

シンポジウムでは、本学術集会のテーマ「学校保健活動におけるICT活用」に迫るために、様々な立場から教育現場等でICT活用を実践している方々にご提言いただき、新しい視点やこれから必要となる知識についてご提示いただき、フロアの皆様を交えて議論しました。

##### ～管理職の視点から～

岡本雅文（京都市立川岡東小学校）

「自分の体と向き合い主体性を育む夏期健康学園」と題して、夏期健康学園の取組について紹介された。京都市小学校の教員や養護教諭で構成される研究団体、小学校保健研究会が主体となって、『喘息のある児童の健康・保持増進を図るため、適切な健康管理と指導を行い、積極的、規律的な生活態度を身につけさせる』ということを目指して活動してきた60回を超える取り組みを紹介された。

令和5年度からは、京都女子大学と連携して、4つの健康課題、①「これであなたも目のマスター」、②「自分の歯は元気かな?」、③「身にせまる?! くすりのひみつ」、④「気持ちをコントロールするには?」をテーマに設定して学習会を行った実践や、コロナ禍で対面での心肺蘇生法の講習を行うことが難しくなり、ICTを活用して、小学校と京都女子大学、日本赤十字社京都府支部をオンラインで結び心肺蘇生法の講習会を開催した実践を報告された。

##### ～養護教諭の視点から～

鈴木秀子（大阪府立吹田東高等学校）

「養護教諭のICT活用—今まで・これから—」と題し、突然のコロナ禍で、学びの保障の観点から1人1台端末と高速大容量の通信ネットワークの整備等が始まり、ICTを活用すれば今まで必

要性がありながらも実施できなかった保健教育等が企画できるのではないかと、業務が効率化できるのではないかと ICT の有用性を知り、活用した実践を報告された。

オンラインを活用した保健教育として、課題の配信や提出、教室での一斉講演会、養護教諭による保健の授業、各教室で Web 会議システムを使った SST 講座、生命 (いのち) の安全教育等を行った。教育相談体制では、QR コードを使った教育相談の申し込み、オンライン面談で充実が図られた。その他、生徒保健委員会 (保健探究班) の活動、保健室登校生徒の学習支援、業務の効率化でも ICT を活用した取組みが紹介された。

学校の ICT 環境が整い始め ICT が学校教育の一部となり、誰もが使用するものになることで、“使う人”の技術やモラルが課題となった。更なる ICT 活用・技術の改善、健康課題や生徒の実態に合った最適化、デジタルとアナログのベストミックス等を探りながら、ICT 活用することで得たデータを利活用した取組みを報告された。

#### ～学校医の視点から～

松田義和 (京都府医師会)

「学校保健現場における ICT の利活用について」と題し、医療現場においては、国主導で地域連携・PHR (Personal Health Record) の必要性がさげばれ、医師会事業の中でもさまざまな取組みがされてきた。京都府医師会では、医療・介護情報の共有・連携に活用するため、2016年8月から「京あんしんネット」を稼働させてきた。

これは患者・患児の情報・状況を関係者間でリアルタイムで共有するシステムである。増加傾向にある医療的ケア児においては、保護者・学校・各種事業所・医療機関で連携が必須であるが、その際にも非常に有用であり今後の利活用が望まれる。現状では学校関係者の利用は限定的であるが、これまでの取り組みと今後の利用に向けて説明された。

児童・生徒の感染症情報を医療機関・地域・学校現場で共有するため、全国で「学校等欠席者感染症情報システムが」稼働している。京都府医師会では京都府と連携しこの利活用を推進してい

る。このシステムの実際と利活用の問題点も含めて報告された。

#### ～学校歯科医の視点から～

河野 亘 (京都府歯科医師会)

「コロナ禍における学校歯科保健の現状－ICT を活用した歯磨き巡回指導などについて－」と題し、人生100年時代を家族とともに過ごし、「美味しい」食を共有し、さらに「オーラルフレイル」を予防して、より豊かなQOLを目指すことについて、その始まりとして学校歯科健診、フッ化物洗口、歯磨き巡回指導など学校歯科保健活動の大切さを、改めて学校歯科医の立場から提言された。

コロナ禍の影響で2年間中止となっていた歯磨き巡回指導を、2022年度はオンライン配信という新しい形態で、京都市内19校、京都府下18校で行った。学校現場での『GIGA スクール構想』が着実に進んでおり、ネット環境も良好で、別室からのプレゼン内容が教室の大画面モニターに鮮明に配信され、子供たちはなんの躊躇もなくオンラインによる新しい形での歯磨き指導を体験した。今後この方法を応用すれば、教室にいる全学年、全生徒にハイブリッドでの歯磨き指導が可能になり、さらに児童生徒はインカム付きのタブレットを持っているので、インカムで一人一人の歯磨きの様子もホストモニターから観察可能になるはずで、より進化した歯磨き指導の可能性も感じた。

#### ～学校薬剤師の視点から～

守谷まさ子 (京都府薬剤師会)

「薬物乱用防止教育に向け～学校薬剤師の IT 活用の一歩～」と題し、薬の正しい使い方を知ることが、生涯にわたり自身の健康を維持するための基本条件である。学校薬剤師の保健指導の時間に「薬教育、薬物乱用防止教育」について、生徒のタブレットを利用した参加型の講義を、保健部教諭、養護教諭、担任の協力の下で行い、ICT 利用の講義による理解について検証した。

薬の正しい使い方について、「〇×クイズ」形式による設問を PPT で作成し、事前に学校へ送

付し、回答後解説を行うこととした。スクリーンに全員の回答が一斉に表示され、○×の割合が一目瞭然となった。ICTの活用によって、クイズを正面からとらえ回答することができ、自分自身の考えをまとめことにつながる。このことは、くすりの正しい使い方の理解につながり、行動につながると思われる。毎日使用しているタブレットを活用することで、講義内容の理解度を個別に見ることができる。一人一人の結果が出ることで、全員の中で自分の回答もみることができる。自分の考えと違う答えが出た時、振り返ることで軌道修正につながる。薬の正しい使い方を知ることで、自身を大切にし、オーバードーズの防止につながる等の効果が報告された。

## 5. 2024年度近畿学校保健学会奨励賞

選考委員会による審査の結果、次の2名が2024年度近畿学校保健学会奨励賞として採択された。

**受賞者：酒井隆子（丹波市立青垣中学校）**

**演題：学校における養護教諭の校務の情報化に関する実践的研究**  
(抄録は P.11 に掲載)

### 受賞のこぼ

**酒井隆子（丹波市立青垣中学校）**

このたびは大変に榮譽ある賞に御選出いただき、心より御礼申し上げます。身に余る賞を賜りましたことに、溢れんばかりの嬉しさを噛み締めつつも、賞に恥じることはないようにと身の引き締まる思いであります。近畿学校保健学会の発表は、第62回大会(於：奈良女子大学)で初めて発表をさせていただいて以来の、9年振りの発表でした。当時は、兵庫教育大学大学院の修士課程に在学し、鬼頭英明先生(現：法政大学)や西岡伸紀先生(現：京都女子大学)の手厚い御指導を賜りながら、足が震える程の緊張を抑えて発表に臨んだ思い出があります。

現在は、養護教諭として現場での日々に奔走し、研究活動にはますます疎くなってしまったので、このたびの個人研究を評価いただけましたことは、ひとえに学生時代の先生方の御指

導の賜物であったと強く感じております。9年越しとなりますが、改めまして先生方には深く御礼申し上げます。

そして、当日のシンポジウムでは「学校保健活動におけるICT活用」をテーマに、教員や学校三師の先生方の実践を拝聴させていただき、ICTの発展には多様な立場の方々との協働や支えが欠かせないことや、その可能性が無限大であることを切に感じました。また、口頭発表では様々な領域をご専門とされる先生方から活発に意見交流をいただいたことで、新たな知見を得ることとなり、大変に有意義で貴重な時間を過ごさせていただきました。久方振りの口頭発表ではありましたが、意を決して挑戦して良かったと心底感じることができました。今後は、いただいた奨励賞を支えに、理論と実践の往還に繋げられるよう、より研究を深化させて参りたいと思います。

最後に、このような素晴らしい学会を開催していただきました大川尚子会長、後和美朝幹事長をはじめ、学会の開催・運営にご尽力賜りました皆様には敬意を表しますとともに、改めまして心より感謝申し上げます。

**受賞者：市ノ瀬菜々（明石市立大久保小学校）**

**演題：女子大学生の援助希求能力と阻害要因**  
(抄録は P.12 に掲載)

### 受賞のこぼ

**市ノ瀬 菜々（明石市立大久保小学校）**

この度は2024年度近畿学校保健学会奨励賞を賜り、大変光栄に感じております。同時に、これまでご指導いただきました先生方に深く感謝申し上げます。この度の受賞を励みに、子どもたちの心身の健康を支える1人の養護教諭として精進して参ります。

本学会では、一般演題にて先生方の学校保健に関わる幅広い研究発表を拝聴させていただき、貴重な機会となりました。ランチオンセミナー、教育講演、シンポジウムにて成長曲線の重要性や緊急時の心構え、ICTの活用方法など専門的なお立場の先生方から学校現場で活かせる貴重

なご意見を伺うことができたことも、私にとって大きな収穫となりました。

大学を卒業し、養護教諭として働き始めて数か月が経ちました。この度、はじめて学会に参加させていただきましたが、子どもたちの健康を支えることの責任と尊さを再認識し、身が引き締まる思いです。

最後になりましたが、素晴らしい学会を開催していただきました第71回近畿保健学会会長大川尚子先生をはじめ学会開催・運営にご尽力賜りました皆様に、改めまして心より御礼申し上げます。

## 6. 学会印象記

生田理心（京都女子大学発達教育学部教育学科  
養護・福祉教育学専攻2年）

京都女子大学にて「学校保健活動におけるICT活用」をテーマに第71回近畿学校保健学会が開催されました。学会長である大川尚子先生より、今年度の学会が本学で開催されることをお聞きし、参加のお誘いを頂きました。養護に関する知識習得や将来養護教諭として働くための学びに繋がると考え、参加させていただき運びとなりました。開催当日は天候こそ持ちこたえたものの、正午には気温が上昇し、蒸し暑い中での開催となりました。

午前は会場を2つに分けて一般演題発表が行われました。性教育、養護教諭の役割、保健管理、大学生に関する研究など様々な発表がなされ、特に学校での自殺対策や起立性調節障害についての発表は大変興味深く感じました。子どものメンタルヘルスに関する問題が複雑化する今日において、養護教諭は身体的問題と精神的問題から子どもの健康に携わることのできる特別な立場であることから、養護教諭には心身の両方から健康問題にアプローチできる力やゲートキーパーの役割を担うことが特に求められていると理解することができました。

ランチョンセミナーでは、こうどう小児科より幸道と樹医師にお越しいただき、成長曲線からみる子どもの発達についてのご講演の中で、

学校検診で成長曲線を活用することの有用性についてお聞きすることができました。大学での講義で、学校検診時に養護教諭が成長曲線をつけると摂食障害のサインに気づきやすくなるといった内容を学習したばかりであったため、正常な発育・発達を確認するといった意味でも成長曲線を活用することの重要性を改めて感じさせられました。

また、学会が開催された6月下旬は内科検診を上裸で行わせることに対し、プライバシー保護の観点から疑問視されていることが時事的問題として盛んに議論されていた時期でした。私自身も小中高生の時、内科検診で上裸になることに対し否定的な意見を持っていましたが、大学で健康診断の意義について学ぶと虐待痕や側弯症の発見に繋がることからその必要性が理解できるようになりました。そのため、検診を行っていただく医師の観点からのご意見を頂戴したく、内科検診における上裸の必要性についてご質問させていただきました。私が養護教諭として現場に出て学校検診の事前指導を行う際には、検診の方法や意義を丁寧に説明し、理解を得られるような指導を心がけたいと思いました。

大学生になり初めて学会に参加しましたが、普段なかなか触れることのできない研究発表や講演をお聞きすることができ、知見を広げることができました。また、普段の講義での学びがリンクする場面も多々あり、養護教諭としての知識や理解の浅さを痛感しました。今回の学会での学びを生かし、今後の学習や自身の目指す養護教諭像に向けて自己研鑽を重ねていきたいと身が引きしめる思いです。

2024年度近畿学校保健学会奨励賞 抄録

学校における養護教諭の校務の情報化に関する実践的研究

酒井隆子<sup>1)</sup>、佐々木美奈<sup>2)</sup>、島田郁未<sup>3)</sup>

1) 丹波市立青垣中学校 2) 横浜市立南台小学校 3) 横浜市立下永谷小学校

キーワード (ICT, 養護教諭, 業務効率, 保健日誌, 健康観察)

【目的】

現在、養護教諭の校務ではICT化が求められるようになったが(文部科学省, 2023)、実際の活用においては養護教諭個人の裁量に委ねられており、専門職かつ一人職であるがゆえに、困り感を抱えやすいことが推察される。そこで、養護教諭のICT化への困り感への一助として、ICTスキルの向上を目的とした現職教員向けの研修会を実施することで、その効果を検証した。

【方法】

養護教諭の日常業務である来室記録(保健日誌)や健康観察を独自にシステム化したExcelデータを作成し、活用例を紹介・共有したのちに、事後アンケートで自由記述式の回答を求めた。得られた回答は文脈に沿って意味のあるまとまりごとに切片化し、1つの文節としてコード化した。また、研修内容の構成では、予備調査として2023年3月に協力を得られた養護教諭17名を対象に、予備的な研修を設け、PCスキルの課題を抽出した。得られた内容を精査し、それをもとに2023年6~7月にGoogle formsにて、本調査の対象者に向けた任意制の無記名式webアンケートを実施した。その結果から、ICTスキルに関して認知度の低かった内容を

中心に、本調査での研修内容を構成した。

【結果】

養護教諭17名への予備調査では、PCの基本的操作で認知度が低いことが明らかになった。webアンケートでは認知度の程度を高・中・低の3件法で伺い、養護教諭68名から回答を得た。およそ8割以上が「知らない」と回答した機能が「Microsoft IME ユーザー辞書ツールの単語登録(88.2%)」「ショートカットキーの置換(88.2%)」「Excelのvlookup関数(85.3%)」「ExcelのMID関数(89.7%)」「Wordのセクション区切り(79.4%)」であった。本調査では2023年8月に養護教諭105名を対象に研修を行い、事後アンケートをカテゴリ分類した結果、計480のコードが生成された(表1)。

【考察】

養護教諭を対象にしたICT研修会の実施によって、システム化したデータへの肯定的な意見や、今後の活用に対する意欲的な回答が多く得られたため、困り感の軽減に一定の効果があつたと考える。大川ら(2023)の調査でも「養護教諭のICT活用力は経験によって高めることができる」ことが示されており、研修後に実践することで、一層の効果がもたらされると考えられる。

表1 事後アンケートのカテゴリ分類の結果

※( )内は累計コード数

コアカテゴリー	カテゴリー	サブカテゴリー	具体的なコード(代表的な記述)
校務の実態(91)	課題(71)	困惑感(9)	日々の業務時間をもう少し効率化できたらと思っていた。健康診断で担任から「もっと合理的にならないか…」と言われた
		負担感(13)	来室記録や健康観察等、それぞれについてデータを入力し、どれも反映しない状態の資料を作成していることが日常だった
		多忙感(8)	健康診断で忙しくなり、いつの間にか来室記録ばかりになり、挫折を繰り返していた
		ICTへの苦手意識(10)	ICTと聞くと苦手意識あり、なかなか取り入れられなかった
		既存システムの課題(12)	既存の校務システムだと二度手間・過去の情報が見られない・グラフ化や自動化が出来ない等不具合がある
		その他(9)	長い育休の復帰後、ICT化が進んで状況が様変わりしていた
	試行錯誤(20)	成果(10)	自校でもExcelで自作の来室記録を日常的に使用している
		課題(5)	知識がないままExcelで関数を試してみるとエラーになることが多かった
		手書き(5)	校務システムは使い勝手がよくないので、欠席調べも来室記録も手書きしている
	研修内容(216)	教示方法(32)	肯定的見解(12)
課題・要望(17)			実際に参加者が各自のPCを使いながら一緒に作業できると良かった
その他(3)			PCスキルは人によって差があるので、教える側も大変だなと思った
汎用性・活用性(54)			保健日誌、出欠の記録、保健室利用状況、感染症報告、様々な事務処理ひとつの入力が反映される方法があるということを知ることができて驚いた
システムの肯定的意見(159)		効率性・利便性(18)	職務改善や働き方改革にも繋がる素晴らしい内容だった
		具体的な機能(38)	保健室登録、不登校等の把握や、グラフ化や集計も簡単に出来て良い
		気づき・新たな知見(35)	手間のかかる方法でしか業務を行えていなかった。早くに学んでおけば良かった
		ICTの必要性(14)	養護教諭の負担減のためにICTの活用は必須だと感じる
システムの否定的意見(35)		ICTの導入障壁(15)	自分の知識のなさと難しい内容で動かしにくいと感じた
		ICTの不安感(20)	学校で一人で出来る自信がない。研修が今回限りだと複雑で活用できそうにない
今後の展望(172)	関心・意欲(134)	積極的な活用(121)	今回のデータを配布してもらえたらすぐに使いたい。早速やってみよう
		具体的な機能(13)	まずは置換(Ctrl+H)からやってみよう。ショートカットキーも使いたい
	保健室経営(39)	業務改善・生徒対応(14)	事務作業の効率化からゆとりを生み、児童と向き合う時間を大切にしたい
		情報共有・協働体制(11)	ICT支援員さんとも相談したい。職場の若い力を借りてやっていきたい
		問題提起(14)	一長一短があるのでICT化をして良い範囲とそうでない所が注意が必要だと思う

## 2024年度近畿学校保健学会奨励賞 抄録

## 女子大学生の援助希求能力と阻害要因健康

市ノ瀬菜々<sup>1)</sup>, 井上文夫<sup>2)</sup>

1) 明石市立大久保小学校 2) 京都女子大学心理共生学部

キーワード：援助希求能力、インターネット依存、社会性、自己肯定感、阻害要因

【目的】困ったときに誰かに助けを求めるかどうかは、本人が自由に選択することであり、必要以上の助けを求める必要もない。しかし、持続する悩みは、時にうつ病や自殺などの深刻な問題につながることもある。本研究は援助を求めないあるいは求めることができない人たちの実態について把握し、それらに当てはまる対象者に向けたアプローチ方法と援助希求能力を育成するための方策について考察することを目的とした。

【方法】18歳～22歳の女子大学生を対象に、2023年10月上旬～11月下旬に、Googleフォームで作成した質問紙調査を行い、117名から有効回答を得た。

質問項目は、援助希求、インターネット依存度、社会性、自己肯定感に関する質問から構成された。インターネット依存度はYoungのInternet Addiction Test (IAT)、社会性は菊池のKiSS-18、自己肯定感はローゼンパーグの自尊感情尺度の日本語版を使用した。

【結果】普段、悩みを相談することが多い（とても多い・どちらかといえば多い）と回答した者が53.8%であり、少ない（とても少ない・どちらかといえば少ない）と回答した者が46.1%であった。少ないと回答した対象に、その理由を尋ねたところ、相談相手に負担をかけたくない（56.4%）、人に弱みを見せたくない（40.0%）、諦めている（20.0%）、頼める人がいない（10.9%）、助けてもらおうのが恥ずかしい（10.9%）と続いた。悩みを相談することに抵抗があると回答した者が合計で52.1%であり、悩み事があるとき自己解決したいと思うと回答した者が81.2%であった。

自己肯定感、社会性、インターネット依存度に

ついて、相談頻度間で一元配置分散分析と多重比較をおこなった。インターネット依存度において有意差が見られ、相談頻度が「とても多い」と「少ない」の間に有意差が見られた。また、自己肯定感と社会性においては相談頻度間で有意差は見られなかった。相談抵抗感の間での比較では、インターネット依存度との間には関連は見られなかったが、自己肯定感と社会性では有意差が見られ、自己肯定感や社会性が高い者では相談することに対する抵抗感は低い結果となった。

【考察】本研究では、社会性が低い者は、相談することに対する抵抗感が高く、悩み事があったときに自己解決をしたがる傾向にあり、援助希求能力が低いと考えられた。その理由として、他者とのコミュニケーションが上手くいかない場合、相談相手を探すことに労力を費やさなければならず、そのことが負担になると考えられ、援助要請のプロセスで、潜在的援助者の探求の段階で困難を抱える可能性が高いと考えられた。また、相談という行為にたどり着いたとしても、社会性の低さから要請の評価の段階で失敗に終わる可能性も考えられた。勇気を出して相談したにもかかわらず、上手く話すことができず、さらに問題が深刻になった場合、さらなる援助希求能力の低下を招くことが推測される。従って、援助希求に対する抵抗感を除く上で、援助者の適切な対応は重要と考えられた。

【文献】永井智：大学生における援助要請意図教育心理学研究 58 (1), 46-56, 2010

## 2024年度近畿学校保健学会 総会報告

- 議題：1. 2023年度事業報告  
2. 2023年度決算報告及び会計監査報告  
3. 2024年度予算案（事業計画）  
4. 名誉会員の承認  
5. 次期学会担当地区地及び会長  
6. その他

### 1. 2023年度事業報告

#### 1) 会員数

199名（名誉会員14名を含む，2024年3月31日現在）

#### 2) 会議開催，学会通信など

##### ・幹事会（Web会議）

2023年5月27日 第1回幹事会開催  
[2023年5月12日 2022年度会計監査]  
2023年9月23日 第2回幹事会開催  
2024年1月27日 第3回幹事会開催

##### ・常任幹事会（Web会議）

2023年4月10日 常任幹事会開催  
2023年8月21日 常任幹事会開催  
2023年12月25日 常任幹事会開催

##### ・年次学会，評議員会及び総会

2023年7月1日 第70回近畿学校保健学会年次学会開催（対面開催）  
会長：入駒 一美（東京医療保健大学）  
2023年7月1日 2023年度評議員会及び総会開催

##### ・学会奨励賞

2023年7月1日  
2023年度近畿学校保健学会奨励賞  
「保健体育科教員をめざす学生におけるメンタルヘルスとその関連要因」  
浅沼 徹（京都教育大学）  
「大学生における Highly Sensitive Person と精神的健康」  
嶺 哲也（摂南大学学生相談室）

##### ・研修セミナー

2023年12月23日 2023年度研修セミナー開催（Web開催）  
テーマ：地域保健・福祉における災害対応標準化トレーニングコース（BHELP: Basic Health

Emergency Life Support for Public）－避難所開設におけるコーディネーター養成－

講師：日本災害医学会 BHELP インストラクター  
本コースコーディネーター：笠次 良爾（整形外科医師・日本スポーツ協会公認スポーツドクター，奈良教育大学教育学部保健体育講座教授）

##### ・学会通信

2023年6月6日  
近畿学校保健学会通信 No.165 発行  
2023年10月20日  
近畿学校保健学会通信 No.166 発行  
2024年2月13日  
近畿学校保健学会通信 No.167 発行

### 近畿学校保健学会会員数

2024年3月31日現在

所属	名誉会員	評議員	一般会員	計
滋賀県	1	9	12	22
京都府	2	8	15	25
大阪府	4	20	38	62
兵庫県	3	15	25	43
奈良県	2	4	12	18
和歌山県	2	8	19	29
計	14	64	121	199

### 名誉会員名簿（14名）

2024年7月1日現在

年	氏名	所属
2004年	大山 良徳	大阪
2010年	勝野 眞吾	兵庫
2012年	寺田 光世	京都
2012年	八木 保	京都
2014年	大矢 紀昭	滋賀
2014年	堀内 康生	大阪
2014年	三野 耕	大阪
2015年	山本 公弘	奈良
2016年	藤本 正三	大阪
2017年	横尾 能範	兵庫
2017年	北村 陽英	奈良
2019年	松本 健治	和歌山
2022年	川畑 徹朗	兵庫
2023年	宮下 和久	和歌山

## 2. 2023 年度決算報告及び会計監査報告

2024年3月31日現在

【収入】				
	予算額	決算額	増減額	摘要
会計収入	540,000	522,000	-18,000	会費@3,000円×174人
雑収入	20,000	32,000	12,000	研修セミナー
前年度繰越金	1,573,900	1,573,900	0	
合計	2,133,900	2,127,900	-6,000	
【支出】				
	予算額	決算額	差額	摘要
印刷費	100,000	37,990	-62,010	学会通信 (No.165~No.167)
郵送費	120,000	86,576	-33,424	学会通信発送費等
事務費	30,000	10,581	-19,419	学会通信発送封筒代等
人件費	30,000	9,000	-21,000	事務雇用費等
会議費	30,000	0	-30,000	常任幹事会, 幹事会 (年3回)
2023年度研修セミナー	50,000	70,000	20,000	1回開催 (12月23日開催)
役員選挙積立金	30,000	30,000	0	2025~2027年度役員選挙
年次学会補助金	200,000	200,000	0	京都府・第71回事務局へ
ホームページ維持費	40,000	38,721	-1,279	サーバー・ドメイン年間契約料等
予備費	1,503,900	0	-1,503,900	
小計	2,133,900	482,868	-1,651,032	
次年度繰越金	0	1,645,032	-1,645,032	
合計	2,133,900	2,127,900	-6,000	
【目的別預金】				
内訳	予算額	決算額	預金額	摘要
役員選挙積立金	30,000	30,000	60,000	2025~2027年度役員選挙

上記の通り相違ありません。

2024年4月26日

監事 高橋 裕子

監事 森脇 裕美子

## 3. 2024 年度予算案 (事業計画)

【収入】				
内訳	予算額	前年予算額	増減額	摘要
会費収入	540,000	540,000	0	会費@3,000円×180人
役員選挙積立金	60,000	0	60,000	2025~2027年度役員選挙
雑収入	20,000	20,000	0	広告費等
前年度繰越金	1,645,032	1,573,900	71,132	
合計	2,265,032	2,133,900	131,132	
【支出】				
内訳	予算額	前年予算額	差額	摘要
印刷費	100,000	100,000	0	学会通信 (No.168~No.170)
郵送費	100,000	120,000	-20,000	学会通信発送費等
事務費	30,000	30,000	0	学会通信発送封筒代等
人件費	30,000	30,000	0	事務雇用費等
会議費	30,000	30,000	0	常任幹事会, 幹事会 (年3回)
2024年度研修セミナー	50,000	50,000	0	1回開催予定
役員選挙積立金	90,000	30,000	60,000	2025~2027年度役員選挙
年次学会補助金	200,000	200,000	0	兵庫県・第72回事務局へ
ホームページ維持費	40,000	40,000	0	サーバー・ドメイン年間契約料等
予備費	1,595,032	1,503,900	91,132	
小計	2,265,032	2,133,900	131,132	
次年度繰越金	0	0	0	
合計	2,265,032	2,133,900	131,132	
【目的別預金】				
内訳	予算額	前年預金額	予定預金額	摘要
役員選挙積立金	-60,000	60,000	0	2025~2027年度役員選挙

#### 4. 名誉会員の承認

楠本久美子先生（四天王寺大学名誉教授・和泉学び舎代表）

内海みよ子先生（和歌山県立医科大学名誉教授・東京医療保健大学教授）

#### 5. 第71回近畿学校保健学会 開催地区及び会長

開催地区：兵庫

会長：古川 恵美（兵庫県立大学）

### 2024年度

#### 第1回近畿学校保健学会幹事会議事録

日 時：2024年5月18日（土曜日）

13:00～14:40

場 所：ZoomによるWeb開催

出席者：【幹事長】後和

【常任幹事】笠次，宮井

【幹事】（滋賀）住吉

（京都）井上

（大阪）大川，白石，竹端，出水，吉岡

（兵庫）北口，鬼頭，西岡

（奈良）

（和歌山）森岡

（計14名）

委任状（計5名）

オブザーバー：高橋（監事）

議 題：

##### 1. 第71回近畿学校保健学会の開催について

- ・開催方法，プログラム内容について

年次会長大川尚子先生より，第71回近年学校保健学会は2024年6月22日（土）に京都女子大学（E校舎）にて実施すること，また，資料をもとに，学会テーマ，プログラムの内容，演題についての説明があり，承認された。

- ・2024年度近畿学校保健学会評議員会・総会  
後和幹事長より，2024年度近畿学校保健学会評議員会・総会内容について説明がなされ，承認された。

##### 2. 2023年度事業報告，会計報告および監査について

- ・2023年度事業報告について

宮井常任幹事より，2023年度事業報告について資料をもとに説明があり，承認された。後和幹事長より，会員数の出入の詳細な報告があった。

- ・2023年度決算報告および監査について

後和幹事長より，2023年度会計報告について資料をもとに説明があり，高橋監事より会計処理が適切に行われていた旨の監査報告があった。

##### 3. 2024年度予算案（事業計画）について

後和幹事長より，2023年度予算案（事業計画）について資料をもとに説明があり，承認された。幹事より，学会繰越剰余金について質問があり，学会員へ還元していく提案があった。これについて，後和幹事長より，会員数の予測，印刷費や郵送費の価格上昇などの理由から繰越剰余金の維持について説明があった。

##### 4. 名誉会員の推薦について

竹端代表幹事より，楠本久美子先生（四天王寺大学名誉教授および和泉学び舎代表），森岡幹事より，内海みよ子先生（和歌山県立医科大学名誉教授および東京医療保健大学教授）の2名を名誉会員として推薦する提案があり，承認された。

幹事より，名誉会員の推薦基準についての質問があり，後和幹事長より，年齢（概ね70歳を目途），学会貢献年数がひとつの基準となるとの回答がなされた。また，幹事より，各地区での合議制を取ることを，あるいは地区を超えて推薦していく提案があった。

この件について，年齢（概ね70歳），学会貢献年数および地区超えての推薦等，名誉会員推薦基準について継続審議となった。

##### 5. 次期年次学会担当地区（第72回近畿学校保健学会）および会長について

西岡幹事より，第72回近畿学校保健学会開催における運営は兵庫地区となったこと，また会長として，大阪地区の古川恵美先生（兵庫県立大学）が兵庫地区幹事の総意により推薦されたとの報告があり，承認された。

##### 6. 2024年度研修セミナーについて

笠次幹事長より，2024年度近畿学校保健学会研修セミナーとして，BHELPの対面実施（8月18日（日），11月23日（土）の2回）および，日本災害医学会（奈良教育大学ESD・SDGsセンタ

一) と近畿学校保健学会との共催の提案があり、承認された。

#### 7. 学会通信 168 号の掲載内容と発行時期

後和幹事長より、資料をもとに学会通信 168 号についての内容および発行時期 (5 月 29 日) について説明がなされ、承認された。

#### 8. その他

後和幹事より、会員数の減少に伴う各地区の在り方、名誉会員の推薦方法、次期年次学会担当地区の輪番制等についての提案がなされ、継続審議となった。

---

### 関連学会開催日程

#### ◇日本学校保健学会 (第 70 回学術大会)

大会長：伊藤 武彦 (岡山大学)

期 日：2024 年 11 月 15 日 (金) ~17 日 (日)

会 場：岡山大学津島キャンパス (教育学部) ※プログラムの一部は Web 配信

岡山県岡山市津島中三丁目 1 番 1 号

メインテーマ：集まれ！グッドプラクティス

#### ◇日本養護教諭教育学会 (第 32 回学術大会)

学会長：松永 恵 (茨城キリスト教大学)

期 日：2024 年 12 月 7 日 (土) ~8 日 (日)

会 場：茨城キリスト教大学

茨城県日立市大みか町 6-11-1

メインテーマ：養護教諭の実践を省察し知を創造する—ジレンマの意味を問い直す—

※詳細については各学会ホームページでご確認ください。

### 編集後記

今年の気候は、特に記憶に残るものとなりました。例年よりも早くから訪れた異常な猛暑は、多くの熱中症患者を生み出しました。また、9 月には台風の影響で広範囲にわたる大雨や暴風が発生し、各地での停電やインフラへの被害が報告されました。心よりお見舞い申し上げます。自然災害に直面する中で、私たちがどのように子どもたちの健康を守るかが、一層重要な課題であると感じます。

さらに、依然として新型コロナウイルス感染症の影響が続いています。今年は手足口病やマイコプラズマ肺炎など、様々な感染症が代わる代わる流行しています。基本的な感染症対策を講じるだけではなく、子どもたちの心身の健康を守るために、新たな視点が求められているように思えます。

季節の変わり目ですので、会員の皆様もくれぐれもご自愛ください。

(常任幹事 大平雅子)